

良好な景観を未来へつなぐために～私たちはどう考え、どう行動するのか～

■背景・目的

美しく心地のよい景観は、過去、現在、未来の市民が、守り、つくり、育てていくべき市民共有の財産であり、ふるさとへの愛着を高め、広く人を惹きつける宝物です。景観を守り、育てるためには、まちなみに配慮された建築物等をつくることに加え、緑化や清掃、除草等、日々の暮らしの中で行われる様々な活動を幅広く積み重ねることが大切です。特に市域の約9割を占める、里地・里山等の自然景観は、本市の景観の土台であり、人の手がしっかりと加わることで、良好な状態が保たれ、より輝きが増します。しかし、現状は、人口減少と高齢化社会等の到来により、「人々の生業」を通じて良好な状態を保っていくことが困難となっています。人の手を入れ続けないと保てない景観を、誰が、どうやって、労力や経済的負担をしながら、守り、つくり、育てていくのか。行政だけでも、地元の方だけでも担いきれない状況の中、これからの時代に即した新たなしくみを考える必要があります。

これまでのやり方から一歩前へ進むために。

長岡市景観審議会では、現状をしっかりと受け止めつつこれからの時代にあつた景観啓発や具体的な活動例を考えました。

■考え方・活動例

Key-Word 1 新たな価値の創出

「自然の中で一緒に汗を流すことの楽しさ」を景観まちづくりの価値ととらえ、自由な発想を大切に、イベント等を組み合わせる等しながら、若い世代や社会貢献に意欲的な企業等に活動の輪を広げる。

【活動例】

- 気軽に参加してもらうために、「自由」「フラット」「楽しい」「副業的」をキーワードにしたイベントを実施
- 身近な活動から始めてもらうために、花植え等の景観保全活動を一体化したエコツアーリズムを実施
- 企業価値の向上に資する取組として協力を要請
- 景観保全活動とアートを組み合わせることで交流人口を増加



【B 班の検討風景】

Key-Word 2 新たな情報発信

SNS やフリーペーパー等の特性、メリット・デメリットを踏まえたツールを選択し、日々の活動等について定期的に情報発信を行うことで、他地域、多世代からの関心を高める。加えて、モデルケース等を紹介することにより、景観まちづくり活動の幅を広げる。

【活動例】

- 全国各地から担い手を募集するために、SNS を活用し、情報を発信
- より幅広い世代から受け入れられるために、ご当地キャラクターを活用した景観意識の啓発 PR を実施
- 地域内外の双方向による情報共有の場の創出



【A 班の検討風景】

Key-Word 3 新たな人材の育成

既設の市民活動に「景観」という要素を加えられないか検討したり、次世代の担い手である子どもたちに対し「良好な景観の価値」について意識啓発を行ったりし、景観まちづくり活動の裾野を広げる。

【活動例】

- 地域のリーダー的存在等の育成のために、活動団体を対象とした意見交換会を実施
- 人材を切らさないために、次世代の担い手を主たるターゲットにした親子体験教室を開催
- 活動の意欲向上を図るために、表彰制度やバッジ配布等を実施
- 幼少期からふるさとへの愛着を育むために、Edu-Diver 構想を活用した学校教育コンテンツを提供



【C 班の検討風景】

Key-Word 4 新たなビジネス手法の検討

人材や資金が不足する中で、持続可能な景観まちづくり活動とするため、関係人口も取り込みながら、経済的な回路をしっかりと回すしくみを構築する。

【活動例】

- 活動資金の確保のために、クラウドファンディングを実施
- デジタル村民を活用した関係人口の確保のため、地域おこし協力隊や既存の住民団体等との協力・連携を強化
- 森林の間伐材の有効活用を組み合わせ、持続可能な活動サイクルを確立



【全体】

多くの人が、「住みたい」「住み続けたい」と思うようなまちを未来へつなぐためには、「自分たちのまちをよくしよう」という気持ちと、一人ひとりが行動を起こすことが大切です。市民の皆様には、これらの活動に積極的に参加いただき、実際の活動を通じて、「市と一緒にやりたいこと」等ありましたらいつでもご相談ください。市は、これからも皆様とともに景観まちづくり活動を進めていきます。